

『千年後の冒険』

作：前島宏一郎

『千年後の冒険』あらすじ

遠いか近いかわからないくらい未来の話。

他人の病を「引き受ける」こと、

他人に病を「引き渡す」ことが

認められるようになった世界。

いずれ潰える人の命より、

もっともっととおい未来を、

楽しみにする人の物語。

『千年後の冒険』

登場人物表

A スズキ
B 先生

※この戯曲は映像作品（配信作品）を前提として作られており、
「横たわる人」の視界をイメージした映像を前提に描かれています。
ただし、舞台用作品としても上演することができます。

A B A B A B A B A B A

(病室のような部屋。一人の人（A）が入ってくる。)

そこには、長きにわたり病床にあるように見える人が横たわっている。A、その人を覗き込むように眺める。（映像はその横たわる人の視線のよう。）医師

（B）は、その様子をモニター越しに眺めている。）

はじめまして。

⋮

⋮

⋮

「めんなさい。

⋮

あなたのおかげで、私は元気です。

もう30年近く前の話になります。この法ができたのは。はい。

最初は、引受け者と引渡し者が顔を合わせるることは許されていませんでした。

はい。

ご家族とか、いろいろしがらみが生まれてしまう可能性が高いからです。

わかります。

A B A B A B A B

実はこの方は、他にも3件、引き受けていらっしゃいます。

えつ：

ああ、すみません。まずそちらに表示される「面会書にサインを。

⋮（サインする）

ご病気というのはですね、だれでも引き受けられるものではありません。そこにも相性というものがあります。わかりやすく言えば、アレルギー反応みたいなものですね。例えば、癌などの細胞のお病気は、部位が違えばある程度重ねてもさほどの影響はありません。

いわゆる精神疾患同士の場合もそうです。まあ、疾患同士の相性もありますが。

この方は、心臓をはじめ内臓が非常に頑強ですので、そこに係るお病気でなければ、できるだけお引き受けしたいというのが、ご希望でした。

⋮はい。

非常に穏やかな方で。ご自分がお病気を引き受けるにあたつても、引き渡される方のことを少しだけお尋ねになりました。

その方の未来を、想像しては、いつも笑顔でいらっしゃいました。

⋮私は？

え？

私のことは…

ええ、あなたの時は、もうあまり意思疎通ができなくなつてきましたが、お若いのですか、と、気にかけていらっしゃいました。

先生。

はい。

触れても、よろしいでしょうか？

残念ですが、こちらはVRですので、実際は法に基づいた専門のICUに入つておられます。

あ。 そうですか？

ただ、目はお元気ですので、あなたの姿は見えていらっしゃいますよ。

えつ…

お声は…ちょっとその時によりますが、聞こえる時もある

ようですので。

…わかりました。

…

（手紙を取り出す）うまく、話せないかなと思つて、お手紙を書いてきました。

聞きたくないかもしませんが、聞いてくだされば幸いです。あ、もし、聞こえていなかつたら、あとで、映像化してご覧になつてください。

私の病気を引き受けてくださつて、心から感謝しています。

あなたのおかげで、私は生きています。

病というのは、不思議なもので、

病そのものの苦しみはもちろんですが、少しづつ、いろいろ歯車を狂わせていく。

ゆっくり回る毒みたいなものだな、って思いました。

私のまわりも、家族も、世間も、世界も、少しづつ毒が回つていって、

昔はどんな歯車だつたつけ、つていうくらいまつたく噛み合わなくなつてくる。誰も悪くないのに。

私だつて悪くないはずなのに。

みんなが怖い顔になつて、悲しい顔になつて。

この法律を知つた時、残酷だなつて思いました。

一方で、私のように、歯車が噛み合わなくなつて、苦しんでいる人が

たくさん助かるのかなつて、素直にではありませんが、思いました。

私は、大切な人に、こう言われました。

「例えば、10分後の自分は約束できても

10年後は約束できる？

10年前の自分は、いまの自分を約束できた？

じゃあ、百年後は？千年後は？」

人間は、10分後だつて約束できない。

A B A B

それでも、約束するって、そう言いたし、言つてほしいものなんだなって。

とても悲しそうに話した、大切な人に、千年後を、約束できたら。

…永いですよね、千年。

…でも、私は、いま…千年後のことを考えられる。

私の、千年後を、想像させてくださったのが、あなたです。

本当に、ありがとうございます。

あなたの代わりに、何ができるだろう、と。
ずっと考えてきました。

答えは出ませんが

でも、こんなに明確に、

私のために、生きてくれているというなら、
私は、あなたの代わりに、悲しい顔はやめて、
笑顔でいようと思います。

まもなく、お時間です。

…はい。ありがとうございました。

スズキさん。

是非あなたに、これを。（石を取り出す）
…なんですか？

石です。

…はい。

ある方が、6つの石を、6の方に渡したといいます。ご覧のとおり、なんの変哲もない石です。これは、この方から、私が、5年前に引き継ぎました。

…はい。

6つの石、それぞれが、5年ごとに、引き継がれていて、1300年後に完成するそうです。

…はい。

よくわかりませんよね。

ええ、まあ。

ご覧のとおり、なんの変哲もない石です。でも、この石は、もう60人の方の手に渡つて、いま、ここにあるそうです。

…すごいですね。

そう、すごいんです。だれかが「こんななんでもない石」とかつて、放り出したら、それまで。

…ですよね…

よかつたら、引き継いでいただけませんか？

え…私が？

この方の、望みでもあるのです。

B A B A B A

A B A B A B A B A B A

B

私は引き継がれたときに、おっしゃっていました。この6つの石は、もともとひとつで、千年降り続いた涙雨を受けて、6つに割れたのだと。

へえ。

多分、言い伝えじゃないですかね。

…ああ。

そして、涙が上がるたびに、引き渡されてきた、と。この方の、あるいは誰かの、後づけかもしませんが。

…なるほど。

これは、ただの石です。しかし、もう300年近くも、ただの石のまま、引き継がれている。

ただの石、ですか。

…どうですかね。

…どうでしょうね。

ただ、今のあなたに、渡すのが、ふさわしいのかなと。

…どうなんでしょうね。

(間)

1300年。

そうです。ので、あと、千年くらいですか。

…とおいでですね。

そうです。遠いんですよ。千年後とか。

…でも、千年後とか、千年先の約束とか。

…そうですね。

A B A B A B A B A B A B A B A B A B A

…先生。
はい。

…お引き受けします。
…よろしいですか？

はい。

ありがとうございます。追って、お引き渡します。

ありがとうございます。

それでは、そろそろ。

はい：

(画面に向かい深々と一礼)

…ドアは解錠されました。どうぞ。

先生。

はい。

その石、6つあるんですね。

そのようですね。

いくつ、引き継がれ続けてるんでしょうね？

…いくつだと思います？

…うーん、…3つ、かな？

ふふつ。スズキさん。

はい。

千年後なんて想像できるひと、どれだけいると思います？

…ああ…ですよね。

…6つ。

…えつ？

A B A B A B A

A B

想像したいんじゃないですかね。

：6つ。

(間)

1300年後、探してもらいましょう。6つ。

：ロマンですね。

：楽しそう。

：なるほど。とおい、それは、言い伝えですね。

千年後。

これから千年先。：楽しそうですね。

はい。言い伝えます。。

では。

：（もう一度画面の方を見て、満面の笑み、一礼）

END
